

堀川高校の生徒が
「読んでみたい本」
「読ませたい本」

【第1弾】

「下京図書館に
ありますよ編」

令和5年度
京都市図書館読書週間記念事業



京都市下京図書館

下京図書館では、京都市立堀川高等学校と連携して、ティーンズ世代の読書活動を推進しています。

その連携事業の一環として、堀川高等学校の生徒の皆さんが、自身で読んでみたいと思った本や、誰かにオススメしたいと思った本をコメントとともに募り、多くの生徒さんたちからお声をいただきました。それをもとに、下京図書館でおすすめ本リスト「堀川高校の生徒が「読んでみたい本」「読ませたい本」」を作成しました。

第1弾「下京図書館にありますよ編」では、すでに下京図書館で所蔵している本で、堀川高校の生徒さんたちがオススメする本を、コメントともにご紹介します。高校生たちの素直な思いが詰まった図書リストができました。ぜひご覧ください。

【リスト中のマークについて】



読んで
みたい!

堀川高校生が自身で「読んでみたい」と思った本



読ませ
たい!

堀川高校生が誰かに「読ませたい」と思った本



『青い鳥』 重松 清／著 新潮社／新潮文庫

人間関係について考えさせられる。
いじめについて考えさせられる。



読ませ
たい!



『赤ずきん、旅の途中で死体と出会う。』
青柳 碧人／著 双葉社

論理的で、かつ引き込まれるような言葉選
びだから。何回も読み返したくなるから。
ストーリー性に感動するから。



読ませ
たい!



『Another 2001』 綾辻 行人／著 KADOKAWA

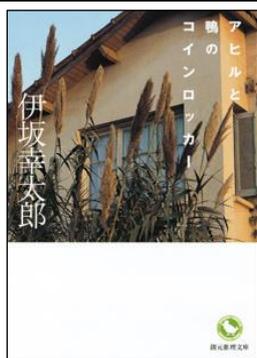
第1作『Another』がとても面白かったので、そ
の続々編である2001も読みたい!! 去年(のリクエ
ストアンケートでも書いたが、当時は広辞苑並みの厚
さのハードカバーしかなかった。しかし! 今年ついに文
庫化しました!! 買い時は今!!! 買おう!!!



読んで
みたい!



読ませ
たい!



『アヒルと鴨のコインロッカー』

伊坂 幸太郎／著 東京創元社／創元推理文庫

トリックにびっくり!



読ませ
たい!



『アメリカの高校生が学んでいるお金の教科書』

アンドリュー・O.スミス／著 桜田 直美／訳
SBクリエイティブ

お金について楽しく学べる。



読ませ
たい!



『アルジャーノンに花束を』

ダニエル・キイス／著 小尾 芙佐／訳 早川書房

好きなミュージシャンがこれをオマージュした楽曲を出していたから。



『有頂天家族』

森見 登美彦／著 幻冬舎／幻冬舎文庫

京都が舞台！疾走感がある！



『海辺のカフカ』

村上 春樹／著 新潮社

- ・謎が解けて、伏線が回収されるときがおもしろい。表現がきれい。
- ・世界観がよい。



『エモい古語辞典』

堀越 英美／著 海島 千本／イラスト 朝日出版社

古語の良さがわかる。



『推し、燃ゆ』

宇佐見 りん／著 河出書房新社

- ・新聞でおすすめされていて気になった。
- ・「推しが炎上した」というテーマが今に通じるところもある作品で、自分の推しにはどれだけお金がなくてもつぎこもうとしたり、自分の「推し」がいる人にはかなり理解できて、どんどんハマっていく主人公と自分とを重ねてしまうような作品だった。
- ・人間らしい描写が好き。





『かかみの孤城』 辻村 深月／著 ポプラ社

- 友達が何人もおすすめしているから。
- 友達に強くおすすめされたから。
- 最後一気にどんでん返しがはじまって、一気に読みたくなりました！あと、おおかみの子がかわいい！
- いじめと向き合いながら強くなっていく主人公にひかれる物語。



読んで
みたい！



読ませ
たい！



『風が強く吹いている』
三浦 しをん／著 新潮社／新潮文庫

- 面白いし、感動します。
- 箱根駅伝がテーマの新しい視点！登場人物の個性がおもしろい！
続きが気になっていくらでも読める！



読ませ
たい！



『風の又三郎』 宮沢 賢治／著 ポプラ社

詩のような表現が面白くて、声に出して読んでみたくなる。
生物が話しているのがとても面白いと思う。



読ませ
たい！



『カラフル』 森 絵都／著 文藝春秋／文春文庫

転生して誰かの死体に魂を宿した主人公が最後に衝撃の事実
を知るところ。



読ませ
たい！



『カラマーゾフの兄弟（上）・（中）・（下）』
ドストエフスキー／著 原 卓也／訳 新潮社／新潮文庫

一回難しく挫折したので、リベンジしたい。



読んで
みたい！



『奇譚ルーム』

はやみね かおる／著 しきみ／画 朝日新聞出版

イラストがかわいいし、読みやすい。



読ませたい!



『君たちはどう生きるか』

吉野 源三郎／著 岩波書店／岩波文庫

- ・主人公コペル君の成長が面白い。
- ・この本の題材としたジブリの映画が上映されることを知ったのがきっかけ。



読んでみたい!



読ませたい!



『君の臍臓をたべたい』

住野 よる／著 双葉社／双葉文庫

- ・感動します。
- ・映画で大ヒットしたから。
- ・映画も漫画も小説も好きだから。
- ・命の儚さを、読者に伝わるように描いていて面白い。映画でも実写化されており、映画を見てからもう一度小説に返って読むとより楽しめる。



読んでみたい!



読ませたい!



『きよしこ』

重松 清／著 新潮社

読み終わった後、言葉に表せない不思議な気持ちになる。



読ませたい!



『兇人邸の殺人』

今村 昌弘／著 東京創元社

現実的なミステリーではなく、フィクションで怪物的なのが出てくるが、それから逃げているスリルや想像するとゾッとする描写まで細かく書かれているので、自分もそこにいるようにハラハラドキドキ感を与えてくれるところが良い!



読ませたい!



『教室に並んだ背表紙』 相沢 沙呼／著 集英社

人生が救われた。本当におすすめです。



『嫌われる勇気 自己啓発の源流「アドラー」の教え』
岸見 一郎／著 古賀 史健／著 ダイヤモンド社

よくネット上でオススメに出てきて、内容が気になったから。



『金閣寺』 三島 由紀夫／著 新潮社／新潮文庫

金閣寺の美しさに魅入られてしまった少年が破滅していく様子が書かれた作品で、様々な人間との出会い、別れを通じてどんなものよりも金閣寺を愛し、その果てに金閣寺を燃やすことを思い立ちます。なぜそのように考えることになったのか、自分の目で読んで考えてみてください。



『クマのプー』
A.A.ミルン／作 森 絵都／訳 村上 勉／絵
KADOKAWA／角川文庫

小さいころからアニメは見ているが、よく知らない。
愛されている理由を知りたい。



『ぐるりと』 島崎 町／著 ロクリン社

本を回しながら読むという斬新さに負けないくらい
ストーリーもよくて、本当にいろいろな人に読んで
ほしいです。

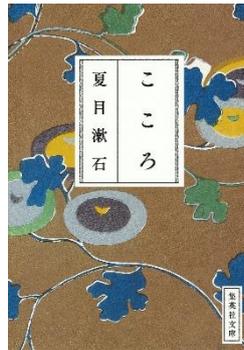




『獣の奏者（1）鬩蛇編』 上橋 菜穂子／作 講談社

主人公の動物への強い思いが感動的。

※シリーズ全体へのコメント



『こころ』 夏目 漱石／著 集英社／集英社文庫

文学的価値が高い。



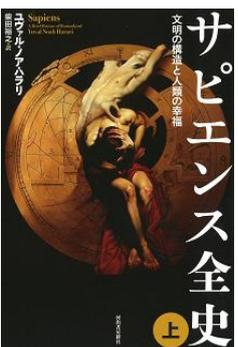
『こころの処方箋』 河合 隼雄／著 新潮社

癒される。



『最果てアーケード』 小川 洋子／著 講談社

1つ1つの描写（特に情景）が繊細→頭の中で想像して読み進めるのがすごくワクワクする。



『サピエンス全史 文明の構造と人類の幸福（上）・（下）』
ユ瓦尔・ノア・ハラリ／著 柴田 裕之／訳 河出書房新社

人類の過去と進化の過程を知ることができるからです。





『しずかな日々』 柳月 美智子／著 講談社／講談社文庫

夏に読むのにオススメな本です。
心に残る夏の思い出にきっとなると思います。



『10代にしておきたい17のこと』
本田 健／著 大和書房／だいわ文庫

ティーンズコーナーにぴったりだと思います。



『ジョーカー・ゲーム』 柳 広司／著 KADOKAWA

多分だまされる。



『<勝負脳>の鍛え方』
林 成之／著 講談社／講談社現代新書

とても面白い。自分に必要。



『小説 STAND BY ME ドラえもん』
藤子・F・不二雄／原作 山崎 貴／著
小学館／小学館ジュニア文庫

泣ける。





『少年探偵 1 怪人二十面相』
江戸川 乱歩／作 ポプラ社

話の展開が予想できず、楽しく読めるから。



『砂の王国 (上)・(下)』 荻原 浩／著 講談社

あらすじを読んだら、ホームレスが新興宗教を作るという話でけっこう意味不明で、なぜ宗教をつくるのか、お金もなくて何ができるのか気になったから。



『精霊の守り人』 上橋 菜穂子／作 二木 真希子／絵 講談社

主人公の心情の描写と躍動感ある戦闘シーンは必読!



『世界ピクト図鑑
サインデザイナーが集めた世界のピクトグラム』
児山 啓一／著 ビー・エヌ・エヌ

世界中のアイデアが見られて面白い!



『ゼツメツ少年』 重松 清／著 新潮社

最後は意外な結末が待っていて、夢の中にいたような気持ちになる。





『そして誰もいなくなった』

アガサ・クリスティー／著 青木 久恵／訳

早川書房／クリスティー文庫

ミステリーの中でも有名な本だからぜひ！



『その日のまえに』

重松 清／著

文藝春秋／文春文庫

価値観が変わります。



『ダ・ヴィンチ・コード（上）・（中）（下）』

ダン・ブラウン／著 越前 敏弥／訳

KADOKAWA／角川文庫

ミステリアスで面白い。



『ダレン・シャン（1）奇怪なサーカス』

Darren Shan／著 橋本 恵／訳 小学館

登場人物1人1人に深いストーリーがあって、話がすすむごとに謎が解明されていくのがおもしろい。

※シリーズ全体へのコメント



『チョコレート・コンフュージョン』

星奏 なつめ／著 KADOKAWA／メディアワークス文庫

恋愛小説としてもギャグ小説としても一級品、
本当に面白い。





『沈黙の春』

レイチェル・カーソン／著 青樹 築一／訳 新潮社

- 母にお薦めされたから。
- 発展する科学に対して、深く考えさせる本。

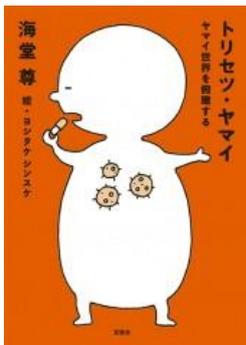


『月の影 影の海（上）・（下） 十二国記』

小野 不由美／著 新潮社／新潮文庫

ねずみの半獣・楽俊がとてもかわいい。心の救い。なのに考え方がすごくしっかりしていて素敵だなと思う。延王・延麒の茶目っ気あふれるやりとりも大好きです。

※シリーズ全体へのコメント



『トリセツ・ヤマイ ヤマイ世界を俯瞰する』

海堂 尊／著 ヨシタケ シンスケ／絵 宝島社

イラストつきで楽しく、わかりやすく病気のしくみを知ることができるからおすすめです。



『ナイルに死す』

アガサ・クリスティー／著 黒原 敏行／訳
早川書房／クリスティー文庫

これまで何度も読もうと思ったが、その分厚さに手が出ずにいました。ドラマ（デビッド・スーシェ出演作）を見てとても面白かったので、原作もきっちり読みたいと思いました。

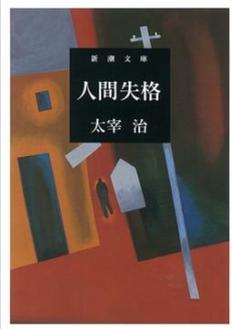


『なぜ僕らは働くのか』

君が幸せになるために考えてほしい大切なこと』
池上 彰／監修 Gakken

将来について考えさせられる！





『人間失格』 太宰 治／著 新潮社／新潮文庫

- 有名だけど読んだことがないから。
- 普段と違う視点から世界を見ることができる。
- 人のダメな部分が包み隠さず描かれているところ。



『熱帯』 森見 登美彦／著 文藝春秋

めくるめく森見ワールドの真骨頂。不思議すぎる世界へ…。



『ハウ・トゥー バカバカしくて役に立たない暮らしの科学』
ランドール・マンロー／著 吉田 三知世／訳 早川書房

常識にとらわれない、ぶっとんだ「方法」を教えてくれる！
ついでに物理も知ることができる。



『バカの壁』 養老 孟司／著 新潮社／新潮新書

名作である。



『浜村渚の計算ノート 1 さつめ』

青柳 碧人／著 講談社／講談社文庫

数学が出てくるけど、それが含まれていることでミステリー性や
謎解き性が出てくるところ。

※シリーズ全体へのコメント





『パラドックス 13』 東野 圭吾／著 毎日新聞社

読んでいて、ドキドキ、ハラハラ、ワクワク、感動できる。

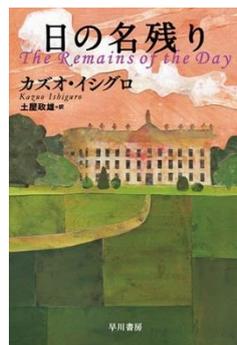


『ハリー・ポッターと賢者の石』
J.K.ローリング／作 松岡 佑子／訳 ダン・シュレジンジャー／絵
静山社

- 世界観がとて面白い。
- 非現実的なので、気分転換になる。
- 映画で見て、本でも読んでみたいと思った。
- 東京にハリーポッター展が来ていて、話題になっていた。
- 読んでいる人が多く、話が面白いと友達が言っていた。



※シリーズ全体へのコメント



『日の名残り』
カズオ・イシグロ／著 土屋 政雄／訳
早川書房／ハヤカワ epi 文庫

描写が美しく、心が癒されます。また、文章も美しく洗練されているので、情景が想像しやすく、あたかも自分がイングランドを旅しているかのような気分になれます。



『百人一首という感情』 最果 タヒ／著 リトルモア

遠く離れてみえた古文の世界がぐっと身近に感じられるエッセイ集。百人一首を詠んだ人々を、血の通った同じ感性を持つ人として見つめ直せる。古文が苦手な人に、和歌を本当に楽しみたいと思う人に。



『小説 秒速5センチメートル』
新海 誠／著 KADOKAWA／角川文庫

新海誠監督の初期作で、主人公の少年期から青年期が3つの短編に分けて語られる。





『舟を編む』 三浦 しをん／著 光文社

- 面白いという噂。
- 同じ著者の他の作品が面白かった。
- 辞書をひくのは苦手だったけれど、この本を読んで辞書に愛着が湧きました。
- 辞書ができるまでの人々の頑張りが描かれていて、とても面白い。



読んで
みたい!



読ませ
たい!



『法廷遊戯』 五十嵐 律人／著 講談社

謎が深くて最後までメチャクチャおもしろいです！
読む手が止まらないです！



読ませ
たい!



『ぼくはイエローでホワイトで、ちょっとブルー (1)・(2)』
ブレディみかこ／著 新潮社

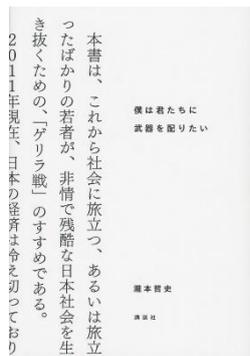
- イギリスの生活や問題を知ることができ、文章も面白い。
- 本屋で見かけることが多く、読んでみたいと思っているが、まだ読んだことがないから読んでみたい。
- 1作目が面白かったから、2作目も読んでみたい。同じくらいの年齢の「ぼく」の目線、海外での世界への目線から、たくさんの社会問題などと向き合えると思います。



読んで
みたい!



読ませ
たい!



『僕は君たちに武器を配りたい』
瀧本 哲史／著 講談社

これからハードモードになっていく日本でどうやって生きるのかというテーマに興味を持った。



読ませ
たい!



『星の王子さま』
サン=テグジュペリ／作 内藤 濯／訳 岩波書店

- ものすごく理解するのが難しい物語だけど、とてもロマンティックでたくさん考えることができる。
- ALT（外国語指導助手）におすすめされたから。



読んで
みたい!



読ませ
たい!



『螢』 麻耶 雄嵩／著 幻冬舎／幻冬舎推理叢書

叙述トリックが芸術的。(でもそれを知ってから読むと面白さ半減かも…)



『ホワイトラビット』 伊坂 幸太郎／著 新潮社

どんでん返しを楽しみたいと思い、調べて見つけた。



『マスカレード・ホテル』 東野 圭吾／著
集英社／集英社文庫

話が面白くて、予想だにしない展開があって、読み応えがある。



『窓ぎわのトットちゃん』 黒柳 徹子／著 講談社

多様な仲間と過ごす、トットちゃんの学校での日常が読んでいて楽しい。幼いトットちゃんが障害のある友達や戦争に懸命に向き合う様子に心が温まり、また考えさせられることが多くある。



NO IMAGE

『ミスター・セバスチャンとサーカスから消えた男の話』

ダニエル・ウォレス／著 川副 智子／訳
武田ランダムハウスジャパン

読む人を選ぶ&自分もよくわからなかったけど面白い。何回も読みたい。





『蜜蜂と遠雷（上）・（下）』

恩田 陸／著 幻冬舎／幻冬舎文庫

上・下の2冊にわたってピアニストたちの葛藤や心情の変化などが細かく描写されている。



『medium 霊媒探偵城塚翡翠』

相沢 沙呼／著 講談社

事件を次々と解決していくところに魅力を感じた。個人的に推理小説が好きなのも理由の1つかもしれない。



『invert 城塚翡翠倒叙集』

相沢 沙呼／著 講談社

『invert II 覗き窓の死角』

相沢 沙呼／著 講談社



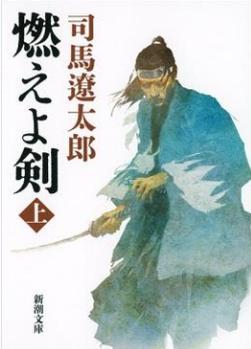
Mediumの続編(?)みたいな感じのもので、読みたいと思っていたけど読んでいなかったから。



『ムゲンのi (上)・(下)』

知念 実希人／著 双葉社

友だち、親からの評判が良いから。好きな作家が書いたから。あらすじが面白そうだから。

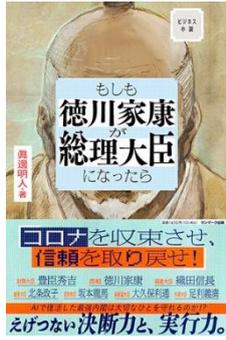


『燃えよ剣 (上)・(下)』

司馬 遼太郎／著 新潮社／新潮文庫

土方歳三の生涯を知ることができる。





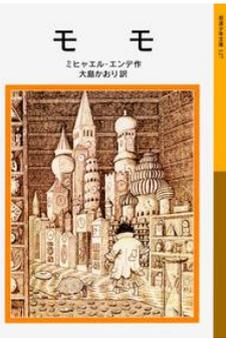
『もしも徳川家康が総理大臣になったら』

眞邊 明人／著 サンマーク出版

コロナが始まった2020年に、徳川家康がDNAによって作られ、総理大臣になった。昔の偉人がたくさん出てきて、現在の人だったら思いつかない行動をして乗り越えていくところ。



読ませたい!



『モモ』 ミヒャエル・エンデ／作 大島 かおり／訳 岩波書店

- お母さんにおすすめされたから。
- 時間についての考え方が変わる。
- 内容が面白く、現代を生きていくうえで大切なことが書かれている。
- 昔に書かれたのが信じられないほど近代的なファンタジー物語。
- 小学生のときに読んだことがあるのですが、あの分厚さにも関わらずスラスラ読めました。読む年齢によって受け取れるメッセージが様々だと称されているのでもう一度読んでみたいです。また、いつか英語でも読めたらと思います。



読んでみたい!



読ませたい!



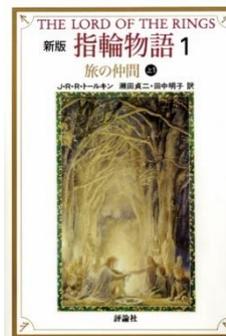
『誘拐遊戯』

※「あなたのための誘拐」(祥伝社 2016年刊)の改題、改稿
知念 実希人／著 実業之日本社／実業之日本社文庫

ラストの大どんでん返しに爽快感があるから。



読ませたい!



『指輪物語(1) 旅の仲間』

J.R.R.トールキン／著 瀬田 貞二／訳 田中 明子／訳
評論社／評論社文庫

ファンタジー小説が好きで、有名なタイトルだから。

※シリーズ全体へのコメント



読んでみたい!



『夢をかなえるゾウ(1)』

水野 敬也／著 文響社

- ガネーシャが関西弁で会話をし、人生で役立つ名言が多く出てくるから。
- 読んでいてクスッと笑える、自分のマインドを変えられる。

※シリーズ全体へのコメント



読ませたい!



『四畳半神話大系』

森見 登美彦／著 KADOKAWA／角川文庫

京都が舞台。バラ色のキャンパスライフ。



読ませ
たい！



『余命10年』

小坂 流加／著 文芸社／文芸社文庫 NEO

きゅんきゅんとハラハラ感がたまらない。



読ませ
たい！



『流星の絆』

東野 圭吾／著 講談社

中学の時に読んだ本の中で、一番心に残っています。



読ませ
たい！



『流浪の月』

凧良 ゆう／著 東京創元社

絶妙で歪な人間関係が面白い。



読ませ
たい！



『レ・ミゼラブル（上）・（中）・（下）』

ヴィクトル＝ユーゴー／作 岩瀬 孝・大野 多加志／訳
偕成社／偕成社文庫

映画などで観賞してみたときに、原作はどのような話なのか興味を持ったから。

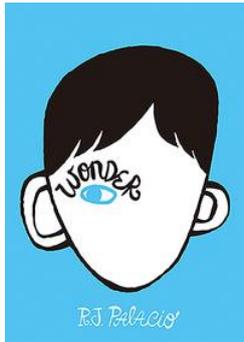


読んで
みたい！



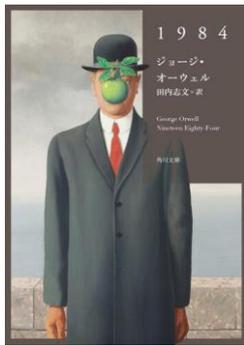
『吾輩は猫である』 夏目 漱石／著 文藝春秋／文春文庫

有名で、前から人生で一回は読んでみたいと思っていたから。



『ワンダー』
R.J.パラシオ／作 中井 はるの／訳 ほるぷ出版

友だちが「面白い」と言っていたから読んでみたい。



『1984』
ジョージ・オーウェル／著 田内 志文／訳
KADOKAWA／角川文庫

世界観がすごい。イギリスで最も有名。
監視社会。

